

## 南米南部共同市場(メルコスール)をめぐる動き

### ■保護主義的傾向を強めるメルコスール

南米南部共同市場(メルコスール)は、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイの4カ国が1991年3月26日にアスンシオン条約に調印したことで創設された「関税同盟」である。最近のメルコスールの動きとしては、欧州債務危機の影響などを踏まえた保護主義的な傾向が特徴だ。2011年12月20日にウルグアイの首都モンテビデオで開催された第42回メルコスール首脳会議では、世界的な経済危機となる懸念を前に先進国が新興国への輸出を加速する動きを牽制した。さらに、域内の市場、産業、雇用を保護するため、加盟各国が域外から輸入する物品について100品目までを例外品目とし、WTOで認められた、メルコスール対外共通関税の譲許税率である35%まで関税率を引き上げることを可能とする旨合意した。メルコスールでは第三国からの輸入品に対して同率の対外共通関税を課すことが原則であるが、各国ごとに一定の範囲内で定められた例外品目があり、加盟各国が独自に関税率の引き上げおよび引き下げすることが認められている。今回の合意で、既存の例外品目に加え、関税の引き上げのみが可能な品目を新たに設定することが可能となった。なお、これは2014年12月までの暫定措置だ。

メルコスール加盟各国の動きをみると、ブラジルは2011年9月、自動車分野で国内産業保護と投資促進を目的として、域内調達率65%などの要件を満たさない輸入自動車に対し工業製品税(IPI)の税率を30ポイント引き上げることを発表した。同措置は2011年12月～2012年12月末の期間に適用される。これは近年のレアル高による、特に韓国、中国からの自動車輸入急増への対応策ととらえられており、その後多くの企業がブラジル国内への製造投資を発表している。また、アルゼンチンでは大統領選挙のあった2011年10月以来、資本逃避防止を目的に通貨管理を強化しており、2012年2月には貿易収支の改善を目的に、全輸入取引に対し宣誓供述書を必要とする、事実上の輸入許可制度を発表するなど保護主義的な動きが強まっている。

### ■メルコスール加盟国内でも利害対立

同じ保護主義的な措置をとるブラジルとアルゼンチンであるが、決して一枚岩で結束している訳ではなく、利害は対立している。メルコスールの主要2大国であるブラジルとアルゼンチンの間では、2011年2月にアルゼンチンが非自動車輸入ライセンスの対象を約400品目から約600

品目に拡大したため、ブラジルからのトラクターや履物などの輸出が停滞した。これに対し、ブラジル側も同年5月10日に自動車を非自動車輸入ライセンスの対象としたため、ブラジルに輸出をするアルゼンチン側自動車産業に大きな影響が及んだ。その後両国間での貿易円滑化に向けた取り組みで合意したにもかかわらず、両国税関において貨物がストップする事態が度々生じている。

また、ブラジルの輸入自動車に対するIPI税率の引き上げ措置は、中国などの自動車組立・部品企業が立地しているウルグアイにも影響を与えた。外交交渉の結果、ウルグアイの自動車はIPI引き上げの適用外とされたが、その後も自由貿易を志向するウルグアイは、上記のメルコスール対外共通関税における例外規定の拡大措置や、アルゼンチンの輸入に係る宣誓供述書の導入など保護主義的な動きに批判を繰り返している。

### ■停滞するメルコスールのFTA政策

第42回メルコスール首脳会議において、メルコスールとパレスチナとの自由貿易協定(FTA)締結が合意され(発効に当たっては協定参加各国議会でも承認が必要で2012年5月時点未発効)、エジプト、イスラエルに続く三つ目のFTA協定締結となった。EUとのFTA交渉は、一時中断されていたが2010年に再開され事務的協議が行われている。しかしフランスおよびアイルランドの農・牧畜業がセンシティブ分野となるほか、メルコスールが採る保護主義的な貿易政策に対する懸念がEU側で上がっている。加えて欧州債務危機の深刻化やアルゼンチン、フランスでの大統領選挙など政治要因が交渉を困難なものとしており、進展は遅々としている。

他方、2012年6月にアルゼンチンで行われた第43回メルコスール首脳会議の場で、パラグアイの加盟資格一時停止とベネズエラの正式加盟についての決議が採択された。パラグアイについては、ルゴ大統領(当時)が、農村における警官隊と農民の衝突事件への対応をめぐる国会の弾劾決議で失職したことを問題視したものの、この一方的な弾劾手続きがメルコスールの民主主義憲章であるウシュアイア議定書に違反しているとして、パラグアイを除いた加盟3カ国が同国の資格停止を承認した。その一方で、ベネズエラをメルコスールの正式加盟国として承認することが決議された。ベネズエラは2006年7月にメルコスール加盟議定書に署名しており、パラグアイを除く3カ国の国会では加盟承認の批准手続きが完了していた。今回、唯一ベネズエラの加盟を未批准であったパラグアイの加盟資格停止を受け決議に至ったもの。このほかにエクアドルのメルコスールへの加盟申請が行われており、加盟国拡大の動きが遅まきながらも進み始めた。